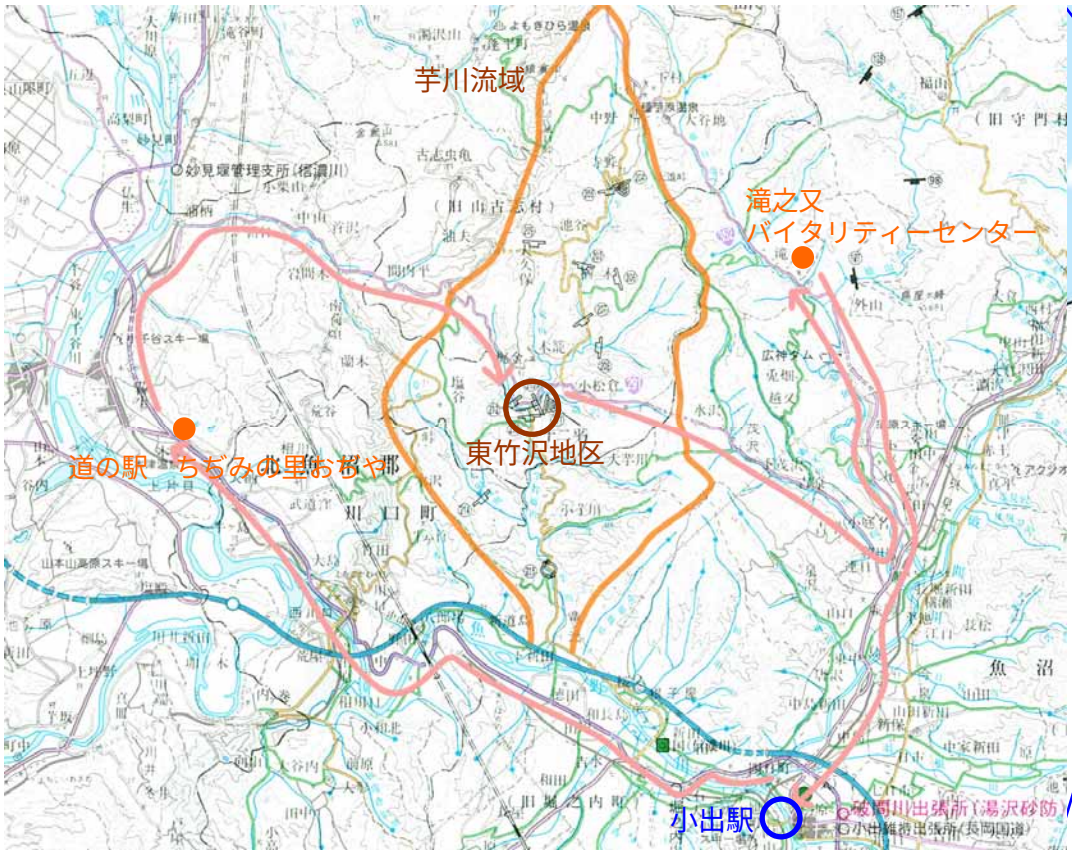
平成１８年度 魚沼自然塾 第３回レポート

平成１８年１１月発行
国土交通省湯沢砂防事務所

雲ひとつない秋空の１０月１４日土曜日、「中越地震をふりかえり、つないでいきたいものとは？」をテーマに、第３回魚沼自然塾を開催しました。

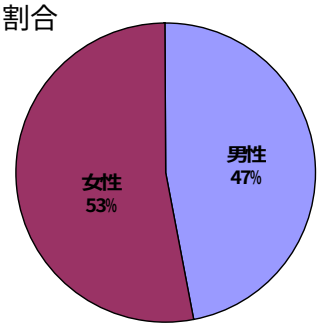
バス４台で小出駅を出発し、小千谷方面から芋川流域へ向かい東竹沢地区砂防工事現場を見学していただきました。昼食後は、地元の方々より地域復興にかける想いを伺いながら、日頃意識しないつながりやふるさとの大切さについて一緒に考えました。



＜プログラム＞

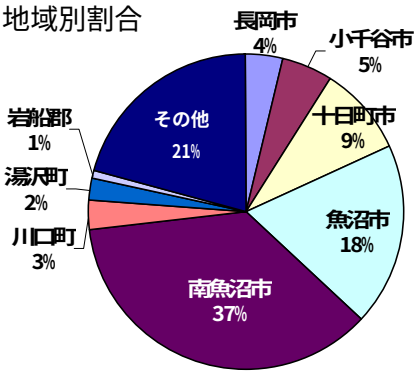
９：２０	小出駅前集合・出発
１０：００	道の駅「ちぢみの里おぢや」にて塾長挨拶
１０：２０	バス車窓から川口・小千谷周辺の復興状況等を見学
１１：００	東竹沢地区砂防工事現場の見学
１２：２０	滝之又バイタリティーセンターにて昼食、 芋川砂防の追加説明、山古志ゲストによるトーク
１４：３０	バス出発
１５：００	小出駅着・解散

参加者の性別割合



小出駅からバス４台で出発。どのバスも満席でした。

参加者の地域別割合



バス車窓からの復興状況の見学

バスは魚野川沿いに旧堀之内町・川口町を通って小千谷市に入り、道の駅で塾長挨拶と休憩した後、妙見付近から朝日川沿いを走って、旧山古志村に入りました。

途中、道路沿いの地震の爪痕や復旧工事について車窓から見学しました。

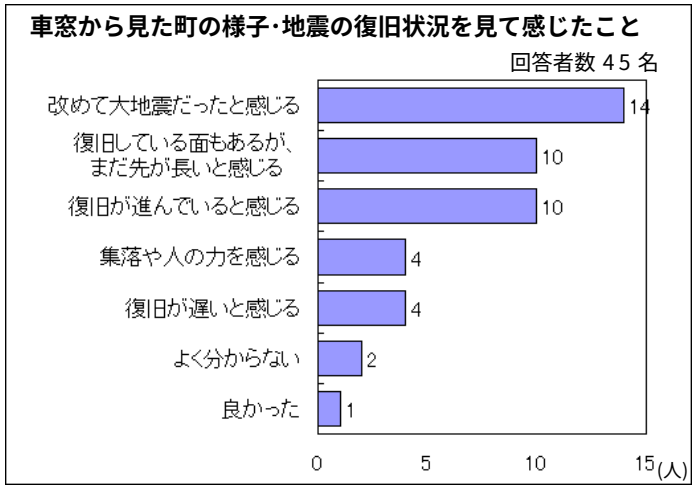
妙見土砂崩落現場で進む復旧工事

間内平付近（山古志）の棚田復興状況

地震の爪跡に驚きの声もありました。

<<参加者アンケート
～町の様子や地震の復旧状況についての感想～>>

- 新築･改築の済んだ住宅や現在新築中の家を見ながら、復興への力強さを感じ、うれしく思った。（十日町市/男性）
- 街は大分復興したと思いますが、(田んぼや畑も含めて）山地の方はまだまだと思いました。（小千谷市/女性）
- 地震の時は「始められるところから復旧しよう」という合言葉でみんな協力し合って町の再建という長い道のりが始まり、日毎に町並みが整っていく感じがしました。（川口町/男性）



東竹沢地区の砂防工事現場見学

見学の様子

東竹沢は中越地震によって芋川でも最大規模の河道閉塞が発生した地区で、被災後間もなく対策が県から国に引き継がれました。現在、２基の砂防堰堤建設と斜面対策を進めています。

見学いただいた高台は、地すべりによる崩落土砂が厚く堆積したため元の川底から約 30m も上がった場所です。

普通、砂防えん堤はコンクリートで作られるのですが、ここでは地震で崩れて出てきた土砂を利用して砂防えん堤を作っています。

そうすることで、土砂を遠くまで運ぶ必要がないので、ダンプからの排気ガスが減り、環境に配慮された工事となっています。また、コストを安く抑え、工期も短く出来るというメリットもあります。

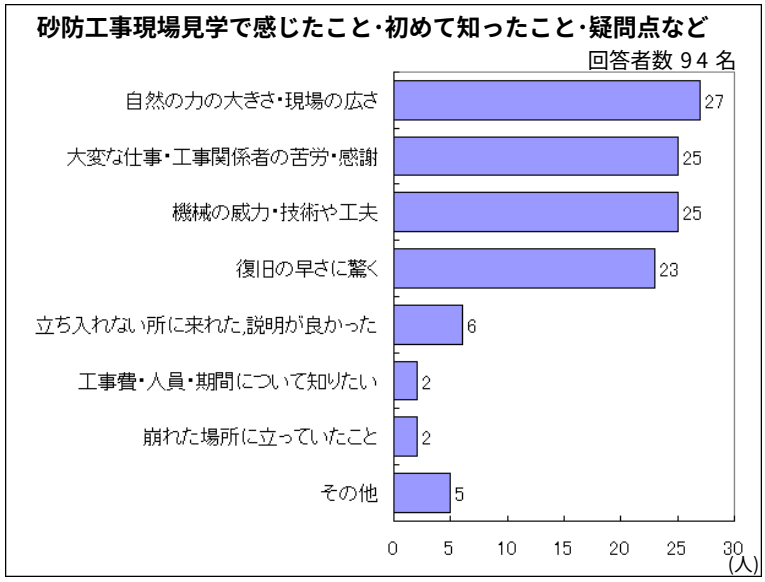
砂防えん堤についての説明

被災直後
（平成 16 年 10 月 24 日撮影）

現在の復旧状況
（平成 18 年 8 月 2 日撮影）
矢印部分が説明を行った高台

＜＜参加者アンケート～砂防工事現場の感想～＞＞

・まだまだ工事が続く中、ダンプが高いところから上り下りをし、命がけの仕事の復旧状況を見て驚きました。（長岡市/男性）
・これ程大がかりな工事をしなければ下流の安全含めて保てない、大変なことだと思います。（南魚沼市/女性）
・周辺の山々の崩れた現場手のほどこし様もない状況おどろきの連続です。降雪前に何とか完成と言われたが大変だなあと思いました。（南魚沼市/女性）
・新聞、テレビ等で知った以上に大災害であったし大規模工事、新技術、新工法を知った。（南魚沼市/男性）
・世界のこれからの自然災害にあった時のいいお手本になると思います。（十日町市/女性）



・自然の力のすごさを目の当りにして、驚きを新たにしました。同時に「人間は意志を合わせ、力を出せばこんなにも早く復旧できるのか。」ということはそれ以上の驚きでした。人間も捨てたもんじゃないと思いました。（十日町市/男性）

室内会場到着・昼食など

芋川流域内にはまだ大人数で利用できる施設がないため、室内会場は魚沼市の施設をお借りしました。このバイタリティーセンターも中越地震で窓や天井が被災し、今年度に改修を終えてオープンしたものです。昼食・パネル展示・トークなどを行いました。

室内会場となった魚沼市滝之又バイタリティーセンターです。

体育館の壁に中越地震と砂防対策についてのパネルを展示しました。

折り紙や紙粘土で遊ぶキッズコーナーを設けました。

ふるさと復興トーク

旧山古志村で地域の復興に活躍されている３名のゲストをお招きして、中越地震で体験されたこと、その後の地域の方々や子供たちのあゆみ、復興にかける想い、夢などを伺いました。

参加者の方からも中越地震を体験しての感想作文をいただいており、一部をご紹介させていただきました。

ゲストのお話

山古志中学校教頭　岩田一郎先生

子供たちは避難生活の苦労を経験しましたが、大きな学校の子供たちと出会いコミュニケーションをし、全国から支援を受けてつながりや人のあたたかさを知りました。

山古志の子供たちは宝物。私達教員も学校が 10 月 30 日に山古志に帰るのを子供たちとともに楽しみにしています。

山古志中学校の文集、「３８人がみた新潟県中越地震」（会場で、いくつかの作文を紹介させていただきました。）

木篭区長　松井治二さん

復興の為の何事も、立場や他のためでもなく、自分のこととして向かっていったら、たいていのことはやれるんじゃないかなとこの地震のなかから考えついたわけです。闘牛サミットは、自分達の先の事もわからないというのに･･･という批判もあるけれど、毎年のことを毎年やることが第一の復興だという思いで、みんなでやりました。

闘牛サミット

長岡市山古志支所長　樺澤正雄さん

第一には、住民の皆さんの気持ちが大事だと思います。子ども達がこれだけ被害を受けた山古志に戻って、また一生懸命やるという気持ちを持ってくれる。その気持ちを受け止めてこれから復興につなげていきたいです。

被災前の山古志の棚田の風景

会場の様子

資料を見ながら、お話を聞いている参加者

まとめ

２年を経て回復する自然の力、まだまだ傷痕が残る現場、町の復興状況などを皆様に見ていただくことができました。トークでは、地震を経験してはじめて「ふるさと」との切っても切れないつながりに気付き、ふるさとを大切に思う気持ちを皆で共有することができました。また、復興するにあたり地域内外の人・機関が力を合わせて事業を進めていることを感じていただけたのではないかと思います。

＜＜参加者アンケート～地域づくりに大切なこととは？～＞＞

・まずはひとりひとりの意識だと思います。（小千谷市/女性）
・まさに地域のつながりだと思う。（南魚沼市/男性）
・皆でよく話し合って協力して行く事だと思います（南魚沼市/女性）
・「住めば都」どんな大きな災害にあってもまたこれからも人に想像できない苦労があると分かっても、そこで住みたいと思う気持ちを大事にすること。（十日町市/女性）
・現地に情報が正確に伝わること。人と人、人と動物、生物との信頼、和。（南魚沼市/女性）
・インフラはなるべくメンテナンスフリーで。ほこりとなる目玉があるのも 1 つのありようだが「何もないけど、いいところだよ」といえるような地域づくりもあるのでは？（魚沼市/男性）
・今まで以上の安全、これまでの風景安らぎの中で生活をしていけて、人口が少しでも増えるような政策（小千谷市/女性）

編集後記

参加者の皆様、お忙しい時期に貴重な時間を割いてご参加くださり、ありがとうございました。

この講座に参加して感じたことをまわりの方々にも伝え、お住まいの地域での災害に負けない地域づくりに向けて、つながりの輪を広げていただければと思います。「芋川かわら版」をはじめ、これからの情報発信に関しては、皆様からいただいたお答えを検討し活かしていきたいと考えております。

ゲストの皆様には心にしみる体験談と将来につながるお話をいただき、たいへん感謝しております。１日も早く、心安らぐくらしが戻ってくることをお祈り申し上げます。

お問い合わせ先：国土交通省 湯沢砂防事務所「公開講座事務局」
ＴＥＬ：０２５－７８４－２０７３　ＦＡＸ：０２５－７８４－２４４１
ホームページ：http://www.hrr.mlit.go.jp/yuzawa/